Japan Evangelical Lutheran Association

JELA NEWS

JELAニュース　創刊号　2003年8月1日発行　　発行責任者　ローウェル・グリテベック

日本福音ルーテル社団　〒162-0842　東京都新宿区市谷砂土原町1-1　Tel.03-3260-8637　Fax.03-3267-4636　jela@jela.or.jp　www.jela.or.jp

社会に出ていき　手をさしのべる

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、
旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。」
マタイによる福音書　第25章35～36節

日本福音ルーテル社団の働き

難民支援

JELAが支援しているのは、政治的・宗教的等の理由から自分の国で安全に生活できないため来日し、日本で難民申請し保護を求めているアジアやアフリカの方々です。このプログラムは1984年に外務省の要請で始められました。1989年に都内に難民申請者支援用のアパート（JELAハウス）を購入してからは、ここを拠点に他のNGOと協力しながら活動を展開しています。

(写真)JELAハウス利用家族の子どもと森川職員(JELAハウスにて)

奨学金制度

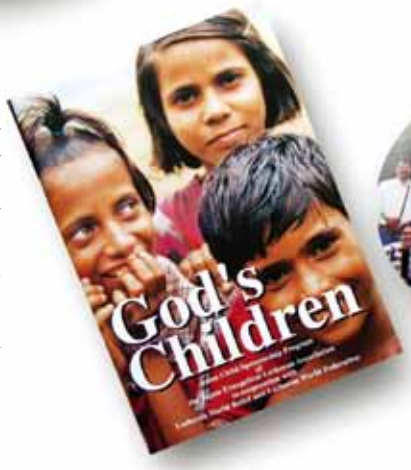
JELAの国際青年交流奨学金制度は、1999年に奨学金基金を設置して始まりました。世界ルーテル教会間の青年の国際交流を計り、青年の知的・人格的育成によって国際親善と平和、文化、学問の向上に寄与することを目的としています。申請資格は原則として45歳以下、国籍には制限がありません。JELA、JELC、ELCA、世界ルーテル連盟加盟教会からの推薦が必要であり、修得教育をもって社会に何らかの形で貢献できることが主な条件です。

(写真)奨学金を受けて勉学に励むマルコス兄

海外ボランティア派遣

アメリカ、インド、バングラデシュ、ブラジルに毎年ボランティアを派遣しています。現地での奉仕活動をとおして、派遣された方が現地の人々と愛の交わりを持つこと、信仰が深まり、帰国後に教会の内外で率先して愛を分かち合う存在となることを期待したプログラムです。派遣期間、対象年齢は行き先により異なります。なお、インドとブラジルの派遣先は、アジア子ども支援、ブラジル子ども支援の地域と重なります。

(写真)米国グループ・ワークキャンプの昨年の参加者（サウスダコタにて）



ブラジル子ども支援

ブラジルには十分な保護がなければストリートチルドレンとなりかねないファヴェーラの子どもたちや、障害は罪の報いであるとの偏見から家庭の奥に閉じ込められてきた障害者など、社会の底辺には貧困、偏見、病気などで苦しみ、生きる権利を脅かされている人々が大勢います。JELAはこのような人々に支援の手を差し伸べる他、ボランティア派遣や日系人との交流により、ブラジルの人々と愛を分かち合う機会を提供します。

(写真)サンパウロの支援施設の子どもたちと古川職員

宣教師支援

米国福音ルーテル教会から日本福音ルーテル教会に派遣され、教会や関連の学校等のために奉仕する宣教師の生活を支えます。長期間滞在する宣教師は宣教活動を中心に活動し、数年間滞在する短期宣教師は東京、熊本等で英語教育に携わりながら青年伝道を中心に奉仕しています。一人ひとりの宣教師の働きについて、このニュースレターの中で少しずつ紹介していきます。

(写真)修養会に集まった宣教師の面々（2003年4月、富士箱根ランドにて）

アジア子ども支援「神さまの子どもたち」

インドとバングラデシュの貧困地域の子どもたちを支援するスポンサーシップです。病院がほとんどなく予防接種も受けられないため結核や小児マヒにかかる子ども、学校や教師不足のため基礎的教育が受けられない子ども、彼らの将来に希望を与えるプログラムです。健康診断、学校建築、飲料水用井戸掘り等の活動を、LWR、LWF等の国際ルーテル機関および現地のNGOと協力しながら実施しています。

(写真)「神さまの子どもたち」（パンフレット）

日本福音ルーテル社団 (JELA) の活動とそのビジョン

*グリテベック事務局長が質疑応答形式でわかりやすく解説します。

Ｑ１：ＪＥＬＡの歴史を簡単に教えてください。

Ａ１：ご存知かもしれませんが、ＪＥＬＡは１９０９年に米国福音ルーテル教会（ＥＬＣＡ）の前身の組織によって作られた、日本の社団法人の草分けです。ＪＥＬＡが作られた目的は、日本にキリスト教を広め、教育と社会福祉を充実させることにありました。創設当時よりＪＥＬＡは、学校、社会福祉施設、教会等多くのルーテル関連組織を産み出し、それらと密接につながっていました。

第２次世界大戦後、次々に私立学校法、宗教法人法、社会福祉事業法等が制定・施行されるようになると、日本福音ルーテル教会（ＪＥＬＣ）を初め、そのもとにあったすべての組織が独立し、それぞれが独自の道を歩みだしました。その結果、ＪＥＬＡの主たる事業は日本在住の宣教師の生活支援となりました。以降しばらくのあいだＪＥＬＡは宣教師会が運営する、宣教師支援のための組織であったわけです。

しかし、１９９５年に大きな転機が訪れ、宣教師支援にとどまらない多様な公益活動を再開することを決断しました。ＪＥＬＡ本来の目的を遂行する時代が再び到来したということであり、私たちはここに神様の不思議なお導きを感じないではおられません。

Ｑ２：ＪＥＬＡは現在どんな働きをしていますか？

Ａ２：ＥＬＣＡから日本へ派遣される宣教師の活動支援はいまでも重要な働きの一つですが、ほかに次の5つのことを行っています。

!ブラジル子ども支援：貧困、虐待等の劣悪な家庭環境から逃れようとしてストリートチルドレンになりかねない子どもに、教育と安らぎの場を提供します。

”奨学金制度：将来自国の発展に役立つ学業に励む日本人・外国人を支えます。

#アジア子ども支援：インドとバングラデシュの貧困地域に安全な飲み水や学校施設等を提供します。すべての子どもは神様の子どもであることを覚え、プログラム名を「神様の子どもたち」としました。

$難民支援：アジア、アフリカ等から逃れて日本で難民申請している人々に無償で住居を提供し、政府の判断が出るまでの生活を支えます。

%ボランティア派遣：ブラジル、インド、バングラデシュ、アメリカでの奉仕活動を希望する日本人を現地に派遣し、人間として、クリスチャンとして様々なことを体験する機会を提供します。

これらの働きをとおして社会に貢献できることは、なんと素晴らしいことでしょう。イエス様はきっと喜んでくださるはずです。

Ｑ３：ＪＥＬＡのビジョンは何ですか？

Ａ３：教育、社会福祉、宣教に関わる働きをとおして世界中の人々とキリストの愛を分かち合うこと、これがＪＥＬＡの使命です。イエス様の次のことばは、このＪＥＬＡのビジョンを具体的に示すものです。
「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイによる福音書25章35節～36節、40節)

ＪＥＬＡの働きは、具体的な行動をとおして自分の信仰とクリスチャンの愛を示しなさいというイエス様の命令を実践するものです。

Ｑ４：日本福音ルーテル教会（ＪＥＬＣ）の働きとＪＥＬＡの働きは、どういう関係にあるのですか？

Ａ４：ＪＥＬＡの役割は教会の働きを補完するものです。教会はキリスト教宣教を直接的､本来的に担うところです。一方、ＪＥＬＡは公益社団法人であり、社会一般の利益、つまり公益のための活動が求められる組織です。このことは、ＪＥＬＡの利点とも言えます。なぜなら、教会ではできない幅広い活動がＪＥＬＡには可能だからです。
一つのよい例が難民支援事業です。ＪＥＬＡは日本で難民申請している人々を支援するにあたり、外務省、法務省といった政府組織、そして国連難民高等弁務官事務所（ＵＮＨＣＲ）のような国際組織と緊密に連携をとりながら、政治難民といわれる方々を支援しています。

ＪＥＬＡは社団法人としての利点を生かして、社会のあらゆる分野に活動を広げています。そして、ＪＥＬＡの活動に関わった人々が教会につながったり、教会を活性化してくれることを期待し、祈り求めています。

Ｑ５：新しい働きの計画がありますか？

Ａ５：財政的な課題はありますが、ＪＥＬＣ、ＥＬＣＡと協議しながら、さらに社会に貢献する活動ができないか考えています。いま、ホスピスや子どもの支援に焦点をあてたプログラムを検討中です。

ＪＥＬＡはＪＥＬＣに加えて、ＥＬＣＡ、ＬＷＲ(世界ルーテル救済)、ＬＷＦ(世界ルーテル連盟)、ＬＩＲＳ(ルーテル移民難民支援機関)といった世界のルーテルの仲間と協力した働きの可能性をさぐってきました。こういった組織と力を合わせることで、より大きな働きが可能となります。ブラジル子ども支援を例にとると、ＥＬＣＡの内部部局であるDGM（世界宣教部門）がこの活動を強力に支えてくれています。私たちの働きをより充実したものにするためには、世界の様々な組織との連携が不可欠です。

以上でＪＥＬＡのことが少しおわかりいただけたでしょうか。私は、ＪＥＬＡには素晴らしい未来が開けていると信じています。ＪＥＬＡはキリストの愛を分かち合うのに最もふさわしい活動を多角的に展開するため、一丸となって努力しています。
ＪＥＬＣ、ＥＬＣＡをはじめ、ご支援くださるすべての皆さま、ＪＥＬＡの今後の歩みに神さまから確かな導きと知恵が与えられますよう、どうか共にお祈りください。

JELA NEWS創刊 おめでとうございます

渡辺純幸

日本福音ルーテル教会の社会福祉における働きは、ほぼ百年前に九州・熊本で産声をあげ、全国のルーテル関係諸施設をとおして社会に大きな貢献がなされてまいりましたし、今も進行形です。また、「共に生きる」「わかちあいプロジェクト」などの働きが運動体として、アジア・アフリカの恵まれない人々への奉仕活動が、信徒レベル、市民レベルで展開されています。これらをとおして、社会に大きな役割を担っています。

それに加えて、日本福音ルーテル社団（JELA）は、アジア・ブラジルの恵まれない子供たちの支援、アジア・アフリカ等からの難民支援、インド・ブラジル等へのボランティア派遣、さらに日本人・外国人のための奨学金をとおしての支援活動を行っています。特に、JELAは社団という公益性を生かして、教会の働きを補完するものとして重要な役割を果たしています。

これらの働きは、日本福音ルーテル教会がまだ十分その業を担いえない分野でもありますが、日本福音ルーテル教会は、世界ルーテル連盟の一員として、現在、世界宣教委員会をとおして、アジアの恵まれない人々への支援活動（メコンプロジェクト）を推し進めています。

主の業のために共働共歩していきたいと思います。

（日本福音ルーテル教会・世界宣教委員長）

JELA NEWS創刊によせて

田坂興亜

今年度、日本福音ルーテル社団がインドネシアキリスト教会のテイゴール・シホンビン牧師のアジア学院での研修を支えて下さっていることに対し、心から感謝しています。私の父、田坂誠喜が信仰を育まれたルーテル教会と関連のある団体から、このようなご支援をいただけることは、神様の恩寵あふれる取り計らいと感じられ、大きな喜びと感謝の念で一杯です。４月12日に行なわれた入学式には、グリテベック、伊藤文雄両先生が出席してテイゴール氏を祝福して下さいました。

アジア学院は、１９７３年に農村伝道神学校の「東南アジア科」が独立して、栃木県西那須野の地で始められたものですが、「共に生きるために」というモットーを掲げて、アジア・アフリカの農村指導者の養成を行なってきました。以来３０年間に、キリスト者だけでなく、イスラム教徒など他宗教の人を含む千名以上の研修生を５1カ国から受け入れ、世界の各地に送り出してきました。

ユーモアを交えた親しみ深い人柄のテイゴール氏が、12月まで西那須野で、1，２月はフィリピンのネグロス島での研修を経て、農民と「共に生きる」伝道者として再び祖国に遣わされるまで、主が彼と共にいまして、豊かに導いて下さるよう、皆様と共に祈りたいと思います。

（準学校法人アジア学院校長）

国際青年交流奨学金制度

インドネシアの牧師にアジア学院研修費を支給

ＪＥＬＡは今年度、インドネシア・ルーテル教会のTigor Sihombing牧師に奨学金を支給することを決定いたしました。Sihombing師は2003年4月からアジア学院(栃木県)で家畜飼育の研修を受けています。研修は9ヶ月の予定です。ＪＥＬＡはこの研修費を負担します。

Sihombing師は1996年以来、インドネシアの北スマトラで牧師をされています。家族は奥様と子どもが3人（10歳、7歳、3歳）。今回のアジア学院での研修については、インドネシア・ルーテル連盟から推挙されたものです。

ＪＥＬＡの奨学金申込用紙にSihombing師のこんなことばが記されています。

「一般の人々と同じ地平でものごとを見る人こそ、本物のリーダーといえます。人類への愛のしるしとしてキリストが弟子たちの足を洗われたように、人々のところにくだっていくリーダーは、地域の問題と必要を理解しています。アジア学院でわたしはそのようなリーダーになるための訓練を受け、キリストの愛をもって奉仕する羊飼いになりたいと願っています。」

(←写真)アジア学院の入学式にて。
左より、伊藤文雄師（日本福音ルーテル教会東教区長）、Sihombing師、グリテベック（ＪＥＬＡ事務局長）

ブラジルの神学生に学費を支給

サンパウロ市在住のMarcos Roberto de Lima兄は2001年にJELAの奨学金を受け、自由バプテスト神学大学で勉強を始めました。

マルコス兄は日系ルーテル・サンパウロ教会所属ヂアデマ集会の会員で、妻マルシア姉と二人の子どもを持つ良き家庭人です。月曜日から金曜日まで日中は会社で働き、夜間に神学の勉強を続けるのは容易なことではありません。在学３年目の現在も家族の理解と協力を得て、ルーテル教会の牧師となるべく一生懸命励んでいます。暖かい人柄と熱心な教会生活の故に教会員からの信望も厚く、JELAは祈りながら良い牧師が誕生するのを待っています。

(←写真)マルコス兄一家

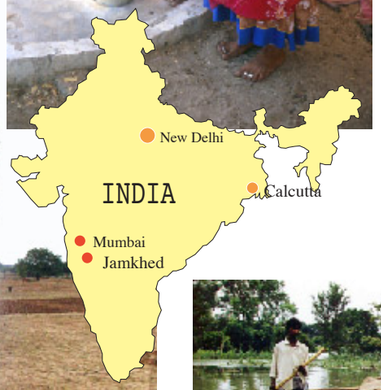
アジア子ども支援

カルカッタ最初の井戸掘りプロジェクトを支援

JELAはLWS(Lutheran World Service)と共同でインド西部にあるカルカッタ近郊地域の井戸掘りを支援しています。水は生活に欠かせないものであり、南アジア地域ではこの井戸掘り作業が昔から重要なプログラムとなっています。

一つの井戸を掘るための費用は、米国ドルでおよそ3千ドル（日本円にすると約36万円）です。いまJELAはインドのLWSと協議しながら、井戸を掘る場所を選んでいるところです。2003年秋までには掘削作業を開始する予定です。

井戸掘りスポンサーシップのために現在まで（2003年6月末現在）JELAに捧げられた支援金の総額は約16万円です。このお金は上記の作業のために用いられます。ことばだけではなく、飲料水確保のための井戸を掘るという行為によってキリストの愛を人々に分かち合うことができるのは、皆様からのご支援があってこそです。心より感謝しております。



ジャムケッドの子どもを支援する「神さまの子どもたち」

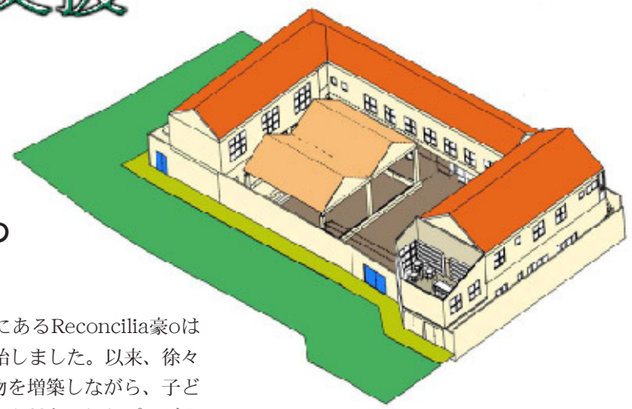
「神さまの子どもたち」がスタートして1年が経ちました。2003年6月末までに与えられたこのプログラムの支援者は、JELCの教会と教会員の皆様を中心に約130名、4つのスポンサーシップと一般献金の形で捧げられた支援金の総額は230万円にのぼります。いただいた献金は、インド西部のボンベイから約百キロ離れた貧困地域ジャムケッドにすまう子どもたちのために用いられます。なお、JELAが支援するアロレ博士運営の同地域総合健康プロジェクトの学校や病院は、ELCA、LWRをはじめ世界の教会関連機関からも支援を受けています。

JELAのジャムケッドの子どもへの支援は、緊急食料の提供、医療措置、教育環境改善のそれぞれにバランスよく配分されます。自立するためにふさわしい教育が与えられるなら、子どもたちの未来はより良いものとなる、とJELAは考えています。教育こそ、貧困状態改善のカギです。

2002年に「神さまの子どもたち」に捧げられた献金は、以下の用途に用いられました。

1　一人ひとりの子どもに必要に応じて緊急食料を提供する。
2　一人ひとりの子どもに緊急医療、予防医療を施す。
3　地域の女性たちの医療ケア・病気予防のための訓練・研修を支援する。
4　小学校教員の給与の一部を賄う。

ブラジル子ども支援



建物の増改築完成予想図

ブラジルの大都市にはファヴェーラと呼ばれる極めて貧しい人々が密集して住む地域が点在します。狭く、暗く、不衛生で、暴力や麻薬が蔓延することもあるファヴェーラの家庭は子どもたちにとって安住できる場所ではありません。義務教育すら受けられない子もいます。子どもたちが夢や希望のない家庭を見限り、ひとたび街に出ていってしまうと、彼らを待ち受けるのは想像もできない非人間的な世界です。

ファヴェーラの劣悪な家庭環境がストリート・チルドレンを生み出す温床となっていることに注目したブラジルのルーテル教会の有志たちは、子どもたちが路上に出ていってしまわないように、給食、健康管理、学習補助、技術指導、情操教育、家庭訪問、カウンセリング等のプロクラムを備えた子どものための教育福祉施設を作りました。

JELAのブラジル・プロジェクトは子どもの生きる権利を守る働きに賛同し、施設への支援活動を続けています。今回はその中の一つ、Programa Comunitá io da Reconcilição（以下Reconcilição）のニュースをお届けします。

Reconciliçãoの増改築計画

サンパウロ市郊外にあるReconcilia豪oは1986年に働きを開始しました。以来、徐々に土地を購入し建物を増築しながら、子どもたちと地域の人々を対象としたプログラムを展開していますが、働きの需要と必要性は依然として大きく、Reconcilia豪oでは建物を増改築してより多くの子どもを保護し、地域に向けた活動を充実させたいという構想を温めてきました。

増改築計画は五期に分かれています。早急に必要な工事は第一期計画であり、現在の食事のオープンスペースを２階建てにして階上に教室を増設し、庭に屋根付きスポーツエリア（多目的スペース）を整備するというものです。第一期工事に掛かる費用は約1,400万円です。日本の支援者の方々を始めとし、アメリカ・ルーテル教会、ドイツ・ルーテル教会にもこのための募金活動が呼びかけられていますので、皆様のご協力をお願いいたします。

サンパウロ日本領事館を訪問

2003年5月、JELA事務局長グリテベックと職員の古川がサンパウロに出張し、Reconcilia豪o の理事3名と共に在サンパウロの日本総領事館を訪問しました。

Reconcilia豪oの増改築計画を説明し、日本の外務省から公的補助金が受けられるかどうかのアドヴァイスを求めたところ、大きな可能性があることが分かりました。

Reconcilia豪oでは必要な書類を準備し、本年8月を目標に「草の根無償資金協力」に申請することになりました。良い結果が得られるようお祈りください。

(写真)外務省職員との懇談（在サンパウロ日本総領事館にて）

宣教師支援

ジョン・ヘインズ兄（短期宣教師）ありがとう。また会う日まで！

ジョン・ヘインズ兄がこの夏に3年間の任務を終え帰国します。ヘインズ兄は熊本の九州学院で英語を教えるかたわら、日本福音ルーテル熊本教会の日本語礼拝では聖歌隊に加わり、同教会の英語礼拝でも、ナルム姉やストロング兄とともに奉仕をしてきました。また、出身地の米国モンタナ州ミズーラにある「子どものための演劇団」の日本招致に尽力しました。劇団は3年前から来日し、九州の小中学生を配役とした英語ミュージカルを毎年公演しています。参加した子どもたちは英語の楽しさを満喫し、英語学習の意欲も飛躍的に高まっているとのことです。この劇団の活動は、4月29日付の英字新聞Daily Yomiuriで大きく取り上げられました。

ヘインズ兄は米国に帰国後、大学院で勉強する予定です。これまでの奉仕に感謝すると共に、今後の学習と働きが祝されるようにお祈りします。また、日本に来てください！

(写真←)ヘインズ兄(九州学院の前にて)

二人の宣教師が活動を開始

新しい短期宣教師、ティナ・ミルズ姉とシェリル・ワレンタ姉を紹介します。二人は6ヶ月の日本語研修を終え、この4月から奉仕活動を開始しました。ミルズ姉は米国アリゾナ州出身。東京で語学研修中は武蔵野教会で教会生活をし、現在は九州ルーテル学院で英語を教えています。一方、ワレンタ姉は米国テキサス州出身。春から本郷学生センターで英語を教えるとともに、本郷教会の毎月の英語礼拝でも奉仕しています。

言葉や文化の異なる日本での生活はいろいろ難しい面があるかと思いますが、二人ともエネルギッシュに忙しい毎日を送っています。二人を歓迎し、これからの働きに期待します。皆さんも二人のことを祈りに覚えてください。

(写真)来日直後のワレンタ姉(左)とミルズ姉(右)

海外ボランティア派遣

(写真↑)家屋の修繕（2002年のGWC）

米国のグループ・ワークキャンプに16名の青少年を派遣

25年以上の歴史を有する米国のグループ・ワークキャンプ。奉仕をとおして青年たちの霊的成長を願うこのキャンプへ今年も多くの青少年を派遣できることはJELAの喜びです。日本からの参加は初年度が3人、昨年が10人、そして3年目の今年は16人。回を重ねるごとにプログラムへの関心・参加申込が急増していることは喜ばしい限りです。

しかし私たちは数の多さ以上に大事なことがあると考えています。皆さんは「るうてる」紙上に紹介された昨年の日本人参加者のレポートをお読みになりましたか？　多くの子どもたちが、米国の青年たちと共に賛美し祈りあう毎日をとおして神様の愛の深さにふれ、イエス様の十字架が自分のためであったことに気づいた驚きと喜びを感動的に語っています。これこそ、キャンプの成果です。この貴重な体験が日本でさらに深められ、日本や世界でキリストの愛を分かち合うリーダーとして育ってほしいものです。

グループ・ワークキャンプは全米とその周辺国の50を超える地域で数万人が参加する大規模なキャンプです。今回日本からはオハイオ州のキャンプ(400名規模)に参加します。オハイオは大岡山教会で奉仕している短期宣教師マーラ・ウッド姉の出身地であり、ホームステイその他でウッド姉の母教会にお世話になります。参加するのは12歳から20歳までの男女8名ずつです。この大所帯を統括し、通訳その他のサポートをするために、佐藤和弘牧師、乙守望姉、マーラ・ウッド姉そしてＪＥＬＡ職員の星崎ポールの4名も同行します。7月29日から８月12日までの旅の安全とキャンプでの大いなる祝福をお祈りください。

ボランティア募集！

ＪＥＬＡではグループ・ワークキャンプ以外にも、ブラジル、インド、バングラデシュに随時ボランティアを派遣しています。いずれも成人を対象としたものです。関心のある方、ボランティアにふさわしい方をご存知の方は、ＪＥＬＡ事務局までお問い合わせください。なお、一般的な情報はＪＥＬＡのホームページ（www.jela.or.jp）からもご覧いただけます。

献金者一覧

ブラジル子ども支援献金者一覧
（1996年1月16日～2003年6月30日）

相場 信夫・憲子　赤間 峰子　安芸 澄子　秋山 裕子　Axton, Kevin　浅香 修治・冠・光　浅見 正一・君江　尼嶋 治　荒井 悌次郎・和子　有坂 敬臣・日出子　阿波田 絹子　安藤 勝子　安藤 淑子・カツイ　井 子文　飯島 早苗　飯田 泰治　五十嵐 栄子　池田 章子　池田 富雄　石上 富美子　石川 文一郎　石沢 とし子　石田 せつ子　石田 浩子　石橋 恵子　石原 寛　石丸 寿子　石山 弘之・美沙子　泉 洋子　磯崎 典子　板倉 久良代　伊藤 昭子　伊藤 きよ　伊藤 初江　井上 修司・由美子　井上 萬里子　井上 芳江　今村 朝子　岩知道 コズエ　岩本 保子　宇 五十鈴　上田 真理子　上村　公夫・美紀恵　内山　昌子　Wood, Marla　江澤 妙子　榎本 正夫　榎本 豊　太居 明美　大岩 忍　大垣市内信徒会　大島 京子　大谷 忠雄・妙子　大友 陽子　大野 英雄・久子・利恵・良・秀　岡田 揮代子　岡部 五郎・静子　小川 晶人　荻野 喜美恵　小倉 祥子　落合 美千代　垣内 恵子　柏原 利　柏原 美津子　加藤 久子　加藤 恵　金丸 真弓　金子 律子　上窪 松子・健二　神村 恵美子　紙谷 守・迪子　神山 愛子　神山 弘子　鴨下 四子　川上 範夫　河波 俊博・千加　川人 献三　木曽 勝子　木村 猛・富久子　工藤 純一　國吉 純枝　窪田 都子　窪田 けい子　倉重 みどり　Gretebeck, Lowell & Junko　来嶋 紀美子　呉屋 冨士夫　恵泉 幼稚園　古財 克成　古財 久美　古財 武久・悦子　古財 徳夫　小島 悦　越山 和子　小助川 節子　五藤 珠枝　小林 恵理香（東教区中高会）　斉藤 厚子　斎藤 美枝子　斉藤 忠碩・恵　酒井 惠美子　坂井 博子　阪下 勝美・友子　坂根 信義　佐々木 範子　佐々木 花子・教祐　佐藤 恵美　佐藤 操　三五 康子　塩原 孝雄・賢子　重野 信之・了子　柴田 康子・文治・愛子　島宗 正見　清水 誉至子　白髭 市十郎　菅廣 敬・芳子　杉浦 日出夫・寛　杉浦 りえ　杉山 昭男・紘子　杉山 和世　鈴木 暁美　鈴木 千介　鈴木 辰典・米子　鈴木 春江　鈴木 陽子　須永 敏子　関口 佳子　関野 和彦・信子　芹沢 章・周子　高津 和子　高西 義三・美智子　高野 利夫　高橋 佳子・康子・徹　高橋 幸司　高橋 進・いづみ　高橋 孝　高橋 千夏　高橋 トヨ子　高橋 尚子　高橋 素子　高橋 安子　高橋 康子　竹内 貞夫　竹内 由利子　竹下 公生・香代子　竹多 清子　竹田 孝一・久美子　武田 良二・歌子　田島 靖則　田中 博二・初枝　田中 美紗子　谷川 敦子　谷川 由香　堤 重敏・和子　手塚 洋子　寺沢 節雄・陽子　土井 賀代　東條 和子　戸田 修司　富尾 倫子　友田 優子　友部 八千代　豊島 順子　鳥居 和代　内藤 弁弥　中井 弘和・奈津子　永井 みつ　長尾 博吉・法子　中川 みどり　中島 愛　中田 直美　中塚 さえ子　中村 孝治・敬子　中村 雅子　中歩師 典子　中本 秀行　中安 竜之介・あかね　納谷 健太郎　西 一郎　西 恵三・千恵　西川 喜久美　西川 順子　西沢 良一・千恵子　西立野 園子　西村 紀子　西山 和子　野口 泰介・順子　野口 眞寿　野田 マサ子　芳賀 明子　芳賀 美江・直哉　箱田 清美　橋口 保夫・栄子　長谷川 幸子　濱田 良枝　早坂 美智子　早瀬 康平　早瀬 律子　原田 節子　Halvorsen, Jerry　日野原 万記　日平 緑　ひまわり会有志　兵藤 真里子　平井 栄　平瀬 暢子　平野 直幸　平林 洋子　深川 育子　深川 常雄　福田 陽子　藤井 義　藤井 浩・礼子　藤浪 陽子　藤橋 日出子　藤本 義和　渕田 康穂　船城 道雄・俊子　古川　文江　宝珠山 幸郎　細倉 道子・岳・征　本多 美奈子　松井 昭　松隈 貞雄　松島 たつ子　松田 英子　松田 博　松田 美智子　三上 八重　三嶋 昭子　南 節子　宮坂 恵喜子　向井 チトシ　迎 恒夫・千栄子　宗方 美代子・美文　村上 三枝　村松 由起夫　森 美智子　森川 博己　森田 雅子　矢込 総子　柳澤 徹・恵美　柳澤博愛医院　柳掘 恭子　矢野 耐子　山県 順子　山口 美子　相場 憲子　山崎 恵美子　山崎 隆義・嘉子　山下 いづみ　山下 倫子　山田 薫　山田 嘉子　吉川 範子　吉田 員子　李 永吉　和久田 恵美　和田 明子　和田 英男・智恵子　和田 みどり　渡辺 千春　渡辺 美智子

函館教会　鶴ケ谷教会　大岡山教会　三鷹教会　保谷教会　小田原教会　湯河原教会　小鹿教会　元町教会　名古屋教会　京都教会　賀茂川教会　刈谷教会　八幡教会　箱崎教会　聖ペテロ教会　浜名教会　挙母教会　本郷教会　札幌教会　大江教会　大分教会　帯広教会　名東教会　市谷教会　健軍教会

北海道教区婦人会　東教区婦人会　婦人会連盟事務局　婦人会連盟東海教区　東海教区婦人会　稔台教会婦人会　千葉教会婦人会　蒲田教会婦人会　蒲田教会麦の会　甲府教会女性会　下関教会婦人会　室園教会婦人会　箱崎教会女性会　湯河原教会婦人会　西中国地区婦人会

甲府教会 教会学校　小石川教会 教会学校　雪ケ谷教会 教会学校　保谷教会 教会学校　名古屋教会 教会学校　八幡教会 教会学校　箱崎教会 教会学校　唐津ルーテルこどもの教会　西条教会 教会学校　田園調布教会 教会学校　日本キリスト教団刈谷教会学校

ルーテル羽村幼稚園　門司幼稚園　門司幼稚園父母の会　恵泉幼稚園　奈多愛育園　玉名ルーテル幼稚園　西条ルーテル幼稚園　名古屋ルーテル幼稚園　田園調布ルーテル幼稚園愛泉保育園
（以上敬称略、合計325件）

「神さまの子どもたち」献金者一覧
（2001年12月の創設時～2003年6月30日）

赤間峰子　朝倉由利　安達美栄　阿部晴夫　有田志麻　安藤淑子　石澤とし子　泉洋子　伊東聖子　伊東節子　岩崎高純　臼井邦子　梅津トク子　梅田満枝　江藤広子　援助修道会　遠藤綾　大迫英子　太田立男　岡幸恵　岡部五郎･静子　加藤俊鋪　加藤穣　川口武宣　菊地千恵　木村猛　京谷信代　清田純次　窪田銈子　ｸﾞﾘﾃﾞｯｸ､ﾘｻ　佐々木和子　佐々木裕子　佐々木康幸　佐藤徳男　沢洋子　三五さやか　三五康子　島宗正見　霜尾閑子　ｼｭﾚｽﾏﾝ　白髭市十郎　尻無浜紀美子　神恵子　杉江慶子　鈴木やす　須永敏子　関野和彦・信子　高橋要子　田子希望園　田中博二　谷口恭教　辻佳澄　堤惠　寺澤始　東郷健児　戸田和代　長尾博吉　中川千恵　中島愛　中野満子　中前秀光　中村雍子　西恵三・千恵　西川寿一西村鶴子　西村晴道　西山昭子　仁保成子　野田マサ子　橋本直大･敬子　花城裕一朗　浜口瑞子　濱崎史朗　原宏　原田恵美　ﾊﾙﾎﾞｰｾﾝ､ｼﾞｭﾘｰ　東山義夫　深江恂子　福田陽子　古川文江　ﾏｽｹｰﾄ､ｱﾝｼﾞｭﾝ　松崎健　眞鍋直美　森保宏　丸山正昭　米岡光子　南谷なほみ　南谷昌秀　宮澤真理子　迎恒夫・千栄子　宗方美代子　村上昌三・由香　山口裕子　山口美子　山崎恵美子　山下力久　湯口依子　吉田シモ　李永允　渡辺聡　匿名数名
（以上敬称略、合計130件）

市ヶ谷教会婦人会　大岡山教会幼稚科　唐津教会　唐津ﾙｰﾃﾙ幼稚園　岐阜教会　岐阜教会教会学校　J希望教会　京都教会 釧路教会 熊本地区婦人会　健軍教会婦人会 高蔵寺教会　甲府教会　西条ﾙｰﾃﾙ幼稚園　玉名教会　玉名ﾙｰﾃﾙ幼稚園　田園調布ﾙｰﾃﾙ幼稚園　名古屋めぐみ教会のぞみ幼稚園　箱崎教会　婦人会連盟東教区　保谷教会　雪ケ谷教会　雪ｹ谷こどもの教会　雪ｹ谷ﾙｰﾃﾙ幼稚園　愛光幼児園

※献金のご協力は、以下までお願いいたします。

■ブラジル子ども支援
郵便振替口座番号　００１９０－９－５７９８１２
加入者名　ストリート・チルドレン献金

■アジア子ども支援「神様の子どもたち」
郵便振替口座番号　００１４０－０－６６９２０６
加入者名　神様の子どもたち　日本福音ルーテル社団

■難民支援
三井住友銀行　飯田橋（いいだばし）支店
普通預金口座　８６６４０６
口座名義　日本福音ルーテル社団　難民救済口
（にほんふくいんるーてるしゃだんなんみんきゅうさいぐち）

■その他のプログラム
三井住友銀行　飯田橋支店
普通預金口座　２８９６５０６
口座名義　日福音ルーテル社団

なお、銀行から振り込んでいただく場合は、お名前、ご支援いただくプログラム名等について別途お知らせください。

難民支援

欧州4カ国の難民申請者受入施設視察調査に参加

2002年5月に発生した中国の在瀋陽日本領事館事件を契機に、日本在住の認定難民、難民申請者(以下、申請者)の処遇に大きな関心が寄せられるようになりました。とくに申請者については、日本の場合その法的地位が不安定であり、生活支援も十分とは言えない現状があります。政府内にはこれを改善しようという動きがあり、協議に役立つデータの収

集をかねて、難民事業本部は2003年初頭（1月26日～2月7日）欧州4カ国の申請者受入施設視察調査を実施しました。対象国はフランス、ベルギー、イギリス、ドイツです。外務省人道支援室、難民事業本部および国内の難民を支援する三つのＮＧＯにより調査団が編成され、ＪＥＬＡの森川職員がその一員に選ばれ参加しました。調査内容は百ページ近い報告書にまとめられており、日本の難民行政を見直す資料として活用が期待されます。

(写真)フランス社会労働省前にて、左から2人目が森川職員

内閣官房主催「国内難民支援ＮＧＯとの意見交換会」で意見表明

難民受入は入国管理（法務省）、外交（外務省）、児童の就学・日本語教育（文部科学省）、健康・就労(厚生労働省)等、国や地方の行政が多面的に関わる事柄です。残念ながら現在日本には難民問題に総合的に対応する政府部署がありません。そのため内閣官房を窓口とする難民対策連絡調整会議が設けられ、省庁間にまたがる問題を協議しています。そこでの議論を実際的で有意義なものにするには現場で支援にあたるＮＧＯの意見を聞くことが不可欠です。このような趣旨から、内閣官房主催による「国内難民支援ＮＧＯとの意見交換会」が2002年末から開かれるようになりました。７つの難民支援ＮＧＯとＪＥＬＡによって構成される「国内難民支援部会」も昨年１２月と本年４月にこの意見交換会への出席を要請され、難民支援のあり方や情報提供体制の整備等について政府側出席者と意見交換をしました。今後も継続的な意見交換会の開催が望まれます。

各種メディアにとりあげられるＪＥＬＡの難民支援活動

ＪＥＬＡは日本にやってくる難民申請者に住居(ＪＥＬＡハウス)を無償で提供し、ＵＮＨＣＲや複数のＮＧＯと協力しながら、申請結果が出るまでの生活を支えています。申請者への住居の提供は日本ではＪＥＬＡだけが実施しており、いま各方面から注目されているサービスです。事実、ＵＮＨＣＲが2003年４月に発行したニュースレター『難民 Refugees』２４号には１ページにわたりＪＥＬＡハウスに関する署名記事を寄稿しました。また今年の5月には、日本の難民支援の現状を取材した『石橋勝のボランティア２１』（テレビ大阪が製作し、全国２５局ネットで毎週３０分枠で放映するボランティア紹介番組。アグネス・チャン、宮城まり子、有森裕子等の活動も取り上げられています）の中で、ＪＥＬＡハウスでくつろぐ申請者とＪＥＬＡ職員へのインタビューシーンが画面に流れました。

このようにＪＥＬＡのユニークな難民支援活動は外部からの認知度が増しつつあります。これからも「あなたの隣り人を愛しなさい」と言われたイエス様のことばに立ち返りながら、より充実したサービスを提供したいと考えています。

(写真) 『難民 Refugees』24号に載ったJELAハウスの記事

編集後記

ようやくニュースレターをお届けすることができ、ホッとしております。あれも載せたい、これも載せたいと迷いましたが、最終的にご覧の形となりました。今後は年に3～4回不定期に刊行し、様々なニュースを紹介してまいります。皆さまのご意見、お声も紙面にとりあげたく存じますので、この創刊号の感想、その他の情報をお寄せいただければ幸いです。最後に、本紙のデザインについては、日本福音ルーテル市ヶ谷教会の中川浩之兄の協力を得ました。この場をかりてお礼を申し上げます。 (M)

JELA
Japan Evangelical Lutheran Association
日本福音ルーテル社団
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1
Tel.03-3260-8637 Fax.03-3267-4636 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp